



### 平成20年度一般会計決算認定について

## 各会派の総括意見

平成20年度一般会計決算に対する各会派の意見表明が、9月28日の本会議において行われましたので、その意見の内容(要旨)を紹介します。なお、無党派議員(1名)からも意見表明がありました。



▲豊田南土地区画整理事業地区内「コスモスアベニュー」

#### 民 自 民 党 賛 成

### 財政が厳しい状況下においても、創意・工夫により、市民生活向上を目指し歩む姿勢を評価

平成20年度一般会計決算を認定する立場で意見を述べさせていただきます。

平成20年度は、市民生活重視の観点から、高齢者健康事業・子育て支援の充実等を重点施策としてスタートしました。しかし、世界同時金融不安の影響が日本経済に、ひいては日野市の平成21年度予算編成に大きな影響を与えたことは周知のとおりです。

さて、決算内容を目と落とし、市税収入において、徴収率は前年度より下落し、滞納繰越分は上昇しました。税の公平な負担といった観点から、今後とも嘱託員や電話での催告等を積極的に取り組むに努めていきたいと思います。

次に、歳出決算の一例として、保育園待機児解消に向けての取り組みにおいて、民間

保育園等の協力により、高幡不動駅前認定員60名の認定保育所を開設することができました。また、平山台健康・市民支援センター内に民間保育園を開園するための準備を行い、本年度開園しました。これは、統合により廃校となつた小学校の教室を有効利用したもので、経費節減と待機児解消の両面において有意義であったと思います。

今後とも、財政状況が厳しい中においても、創意・工夫により、市民生活の向上を目指して、市政運営を行っていただきたいと思

#### 民 市 民 党 賛 成

### 人件費や不要不急のサービスの削減を評価。市民の我慢と理解が下支えになっていることに感謝

平成20年度日野市一般会計決算に対し、認定の立場で意見を申し上げます。

まず、今回の決算審議に際し、幾つかのポイントに絞って意見を述べたいと思います。歳入決算では、市税等を支

ただきたいと思つています。また、稼働率の低い日野山荘の事業は、さらなる工夫を求めます。衛生費では、新型インフルエンザ対策等に対してスピード感ある対応をお願いします。教育費では、中央公民館高

なご、昨年度の予算流用は、

適切な内容とは言い難く、今後流用は最低限の範囲に止めていただくようお願いいたします。さて、平成20年度は想定も

できないほどの財政難でした。それでも何とか市民サービスの質を堅持できたのは、人件費や不要不急なサービスの削減、現金給付的な事業の見直しなど行政の工夫と決断の成果だと思つています。しかし、まだ多くの市民から様々な要望

があることも事実であり、市民の皆さんに、我慢と御理解をいただいていることが、日野市の行財政運営の下支えになっていることに感謝したいと思います。

来年度以降も市財政は、さらに厳しくなることは自明の理です。私たちは、今回の決算審議を通して、単なる賛否だけではなく、来年度以降にも通用する議論をさせていただいたつもりです。市民の命と人権、安全と安心を守るために、更なる施策展開を求め、決算認定の意見といたします。

#### 公 明 党 賛 成

### 「選択と集中」の手法で行財政改革を推進。市民生活の安心を守る姿勢を貫いたことを評価

平成20年度一般会計決算を認定し、賛成の立場で意見を述べさせていただきます。

さて、平成20年度は財政状況悪化の中、次のような目覚ましい取り組みをしました。福祉分野では、高齢者困窮と支援事業の実施、栄町こ

教育関連事業では、全小・中学校の校舎の耐震化がほぼ完了したことも評価できます。なお、多忙教師サポート事業が全小学校で始まりましたが、今後、中学校においても本事業の早期実施をお願いします。

環境分野では、エコひいきな街づくり事業で、市の仕様を満たした住宅にソーラーシステムを無償で貸与しました。ふだん着で行うCO<sub>2</sub>削減

業では、市を挙げてCO<sub>2</sub>削減への参加・宣言を呼びかけ、地球温暖化防止の取り組みを全市的に開始しました。

最後に、効果的かつ効率的な行政運営、市民ニーズに的確に対応できる市政、格差対策などに積極的に取り組み希望あふれる市政をさらに築くため、今年度決算の結果を検証した結果を翌年度以降の財政運営に反映していただくことを要望して、平成20年度決算の賛成意見といたします。

#### 本 日 共 産 党 反 対

### 不要不急な公共事業を見直し、市民生活を守り支えることを最優先した自治体運営を

平成20年度の日野市の予算は、「日野市の身の丈に合った予算編成」の市長の号令のもとに約21億円(対前年度比4%)の減額予算となりました。それは、市民生活、特に高齢者・子育て・教育に関する施策の切り下げや先送り

た。従いまして、決算においても、その主な執行内容についての変更がないため、今決算の認定には反対であるという

おきたいと思つています。先の総選挙では、国民が政治を動かす権力が実現しました。新政権は、国民の声を

に基つき、具体的な政策を打ち出し、多くの国民の支持及び共感を広げています。もち

ろん、新政権が目指す方向は明確に示されています。それは、紆余曲折は予想されますが、大局において、国民の生活を第一に考え、そのために無駄や不要不急の公共工事の見直しを進めるといふことで

す。この政治の方向は、今後、国だけでなく、地方自治体、日野市においても当然問われるものです。私も日本共産党は、日野

市政において、新選組観光施設の整理統合、学童クラブ等施設の単独建設、市民の森ふれあいホールを建設中止した上で、南平体育館の抜本改修保留処分困難の様相を呈してきている区画整理事業の拡大路線の見直しなどを要望します。これは、不要不急の事業の中止・見直しを行い、市民生活を支えることを最優先にした政治の方向へかじを切るべきだということを改めて提案するものです。

以上、日本共産党市議団の反対の意見といたします。